

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	看護学概論Ⅰ	担当講師	坂本真由美
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
科目設定のねらい					
本科目は看護の主要概念を理解し、先達の研究の積み重ねによる看護理論をもとに看護の本質の理解をめざす看護学を学ぶ上での導入部である。					
本校の教育理念である「その人に寄り添うところ」を育むために、まず本科目で看護の対象である人間理解と人を大切に思える気持ち－権利擁護について考え、看護が人間の生活とどのように結びついてきたかを深く考えるための素材とする。また、最近の厳しい医療現場の現実をふまえながら、社会における看護の位置づけと役割を明確にし、看護そのものへの価値をもつことが看護専門職者としてのアイデンティティを形成することに繋げる。また、看護を思考する態度の導入ともする。このように、本科目では「看護」を学びつつ看護者としての成長の第一歩とする。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1. 看護を学ぶ意味が分かる	1) 私たちと看護の位置関係	(1) 看護を学ぶとは (2) 成長発達と看護 (3) 生活と看護	講義 グループワーク	
8	2.看護の基盤となる主な概念から看護とは何かを考える	1) 看護の本質 2) 看護の役割と機能 3) 看護の継続性と連携 4) 看護学に基盤となる主な概念 5) 看護におけるケア 6) 看護実践と質の保証 8) 看護の役割・機能の拡大	(1) 看護の変遷 (2) 看護の定義 法律・職能団体における定義 (3) 看護学にけるメタパラダイム (4) 主な看護理論家の業績と体系 F. ナイチンゲールの『看護覚え書』、 V. ヘンダーソンの『看護の意基本となるもの』 その他：ニード論、人間関係論 適応理論、セルフケア理論 (5) 看護にけるケア・ケアリング (6) 看護の質保証に欠かせない要件 (7) 現代の看護の動向と今後の展望 ・ 疾病構造の変化 ・ 看護活動の場 ・ 看護の継続性と多職種連携	講義 演習 グループワーク	
6	3.看護の展開、質保証のための思考法がわかる	1) クリティカルシンキング 2) リフレクション	(1) クリティカルシンキングの実際 (2) リフレクションの実際 (3) 科学的根拠 (4) 看護過程	講義 演習 グループワーク	
4	4. 看護の対象としての人間が理解できる	1) 人間の「こころ」と「からだ」 2)成長発達する存在としての人間 3) 生活者としての	(1) 対象理解の基盤 (2) 看護の使命とホメオスタシス (3) 病気による心の変化 (4) 発達段階と課題 (5) 生活者の生理学的・文化的・社	講義 演習 グループワーク	

		人間	会的・経済的 側面 (6) 看護の対象としての家族	
2	5.国民の健康の全体がわかる	1) 健康のとらえ方	(1) 健康の定義 (2) 権利としての健康 (3) 国民の健康状態と生活	講義 グループワーク
2	6. 看護の提供者について理解できる	1) 職業としての看護 2) 看護職者の種類と役割	(1) 職業としての看護の確立と新たな展開 (1) 保健師助産師看護師法における看護職の定義と役割 ー看護師・助産師・保健師 准看護師・看護助手 (2) 看護職の教育制度と就業状況 (3) 看護職者の教育とキャリア開発	講義 グループワーク
2	7.看護の提供の仕組みが理解できる	1) 看護サービス提供の場としくみ 2) 医療安全と医療の質保証 3) 看護職の法と規定	(1) 様々な看護提供の場 (2) 地域包括ケア (3) 看護サービス提供のしくみ (4) チーム医療とその条件 (5) 看護業務の特性と医療事故 (6) 医療安全と医療の質保証	講義 グループワーク
2	8. 看護における倫理について理解できる	3) 看護職者の倫理	(1) 職業倫理としての看護倫理 (2) 対象者の権利擁護 (3) 看護倫理をめぐる取り組み ICN 看護師の倫理綱領 看護者の倫理綱領(日本看護協会)	講義 グループワーク
2	試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護学概論 医学書院 F. ナイチンゲール著 湯楨ます 他訳 看護覚え書 現代社 V. ヘンダーソン著 湯楨ます 他訳 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 手島恵監修 看護者の基本的責務ー定義・概念/基本法/倫理 2022 年版 日本看護協会出版会			
参考文献	系統看護学講座 別巻 看護史 医学書院 系統看護学講座 別巻 看護倫理 ナーシング・キャンパス 2022 学研メディカル秀潤社 田村由美 池西悦子著 看護のためのリフレクシヨンスキルトレーニング 看護の科学社 城ヶ端初子監修 実践に生かす看護理論 19 医学芸術社 時実利彦著 人間であること 岩波新書 G124 田村やよび編集 看護学基礎テキスト第 3 巻 社会の中の看護 日本看護協会出版会 看護六法 2022 年度版 新日本法規 舟島なをみ他著 看護のための人間発達学 第 5 版 医学書院			
評価方法	出席時間、筆記試験、課題・授業の取り組み状況			

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	コミュニケーションの基礎	担当講師	坂本真由美
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
科目設定のねらい コミュニケーションは、ある動機をもって人に働きかけ、同時に影響を受けるという、人と人との相互作用のプロセスであり、人間関係形成において重要な位置を占める。コミュニケーションは社会生活の基本だが、現在は実際に対面しない形式でのコミュニケーション手法が生活の中にあふれている。そのため、様々な健康段階、発達段階にある人々と直接かわりあう看護において、コミュニケーションの重要性、困難さに戸惑うケースも多い。看護の基盤は相手と人間関係の形成である。そこで本科目では、対象者やその家族、他の医療職とより良い関係を作り、豊かな看護実践を目指せるよう、人としてのマナー、コミュニケーションの基本から関係形成までのプロセスを学び、そのうえで看護者としての効果的なコミュニケーション技術の習得をめざす。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
4	1. 社会人としてのマナーについて理解できる	1) 社会人として看護学生としてのマナー	(1) 身だしなみ (2) 言葉遣い (3) 立ち居振る舞い (4) 挨拶・応対 (5) マナー	講義 演習	
2	2. コミュニケーションの特徴と医療におけるコミュニケーションが理解できる	1) コミュニケーションの意義と目的 2) 聴き方、伝え方、話し方	(1) コミュニケーションとは (2) 双方向的な相互作用を生むコミュニケーション (3) 人間のコミュニケーションの特徴 (4) 医療におけるコミュニケーションの重要性	講義 演習	
2	3. コミュニケーションの構成要素と成立過程が理解できる	1) コミュニケーションの手段 2) 構成要素と成立過程	(1) メッセージの表現装置としての手段 (2) コミュニケーションの構成要素と成立過程 (3) ミスコミュニケーションとノイズ	講義 演習	
2	4. 看護における相互作用と役割について理解できる。	1) 看護における援助的人間関係	(1) ケアの原点：援助は人間関係のプロセスそのもの (2) 対話的關係	講義 演習	
4	5. 関係構築のためのコミュニケーションの基本が理解できる	1) 接近的行動と非接近的行動 2) 言語的コミュニケーション 3) 非言語的コミュニケーション	(1) 接近的コミュニケーションの原理 (2) 接近的行動と非接近的行動の具体例 (3) 患者に寄り添う態度とは (4) 非言語的メッセージの重要性と活用	講義 演習	
4	6. 看護専門職者としての振り返りについて理解できる。	1) プロセスノート 2) プロセスノートの活用	(1) プロセスノートの目的 (2) 場面を再構成する上で重要なこと (3) プロセスノートの記述・分析・評価 (4) 関係形成過程の振り返り	講義 ロールプレイ	
4	7. 効果的なコミュニケーションの実践を理解し、活用できる	1) 傾聴	(1) 看護における傾聴 (2) 聴くための条件 (3) 共感的理解・受容的態度 (4) 聴き方 (1) 適切な質問	講義 演習 講義	

2	8. コミュニケーションに障害にある人への対応が理解できる	2) 情報収集の技術 3) 説明の技術 4) アサーティブネス 1) コミュニケーションの障害と身体機能	(2) クローズド・クエスションとオープン・クエスション (1) わかりやすく説明するための条件 (1) アサーティブ行動の獲得 (2) 送り手を理解し、メッセージの内容を具体化し伝達方法を工夫する (1) 失語症のある人への対応 (2) 構音障害のある人への対応 (3) 伝音・感音・神経伝達に問題のある人への対応 (4) 認知症のある人への対応 (5) 意識障害のある人への対応	演習 講義 演習 講義 演習
4	9. チームメンバーの一員としての行動を考えることができる	1) 報告・連絡・相談 2) カンファレンス	(1) 報告・連絡・相談の実際 (2) 討議すること ダイアローグ (3) カンファレンスのすすめ方	講義 演習
2	終講試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院 時実利彦著 人間であること 岩波新書 ナーシング・キャンパス 学研メディカル秀潤社			
参考文献	V.ヘンダー著 湯楨ます・小玉香津子訳、看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 竹尾恵子編 医療安全と感染管理をふまえた 看護技術プラクティス 第4版 学研メディカル秀潤社 大森武子他著 仲間とみがく看護のコミュニケーション・センス 医歯薬出版株式会社 その他講義中に紹介			
評価方法	出席時間、筆記試験、課題・授業の取り組み状況			

授業概要

分 野	専門分野	科目名	ヘルスアセスメント	担当講師	安達文佳
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい

看護は生きた身体と生きた心と、心身一体の感情とに働きかける実践である。人間への理性的で心のこもった、しかも科学の裏付けをもった視点を持たなければ「何を援助するか」は見えてこない。看護職の役割として、まず、その人の健康状態の見極めから始まる。「おや？」という段階から、病気が疑われれば病理的状态をよく把握し、心理・精神的状態と日常生活への影響を把握することが必要である。本科目では、まず生命徴候としての呼吸・循環・体温の仕組みを理解し、それらの観察・測定技術と、病理的状态・心理的状态・生活機能を評価・査定できるフィジカル・アセスメントの基本的知識と技術を習得する。それらの基本的知識と技術を組み合わせヘルスアセスメントの方法を学ぶ。

時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法
4	1. ヘルスアセスメントの意義と目的が理解できる	1) ヘルスアセスメントがもつ意味 2) 看護には何故観察が必要か 3) 情報の整理とアセスメント 4) フィジカルアセスメントの基本的技術	(1) ヘルスアセスメントとは ー看護の対象への関心の持ち方 (2) ヘルスアセスメントの目的 (3) 身体・心理・社会状態のアセスメント (4) 問診の技術 (5) 情報の整理 (6) 記録・報告 (7) フィジカルアセスメントに必要な技術：視診・触診・聴診・打診 (8) 全身状態・全体印象の把握	講義 演習
8	2. フィジカルイグザミネーションの基本技術とアセスメントができる	1) 「生きているあかし」のアセスメント 体温の観察とアセスメント 脈拍の観察とアセスメント 呼吸の観察とアセスメント 血圧の観察とアセスメント 意識の観察とアセスメント	(1) バイタルサインとは何か (2) バイタルサインの意味するもの (1) 体温とは (2) 体温の生理、異常と随伴症状 (3) 体温測定法と体温測定時の留意点 (1) 体循環系と肺循環系 (2) 脈拍とは (3) 脈拍の生理、脈拍の異常と随伴症状 (4) 脈拍の測定と観察と観察時の留意点 (1) 呼吸の生理 (2) 呼吸の生理、異常と随伴症状 (3) 呼吸の測定と観察 (4) 呼吸の測定と観察時の留意点 (1) 血圧とは (2) 血圧の生理、異常と随伴症状 (3) 血圧測定法と血圧測定時の留意点 ①触診法 ②聴診法 (1) 意識とは (2) 意識の評価	講義 演習

10		2) ケアにつなげるアセスメント 「日常生活を支えるからだの機能」のアセスメント 「日常生活行動を遂行するためのからだの機能」のアセスメント	(1) 恒常性維持のための流通機構 ①心臓・血管・リンパ管の解剖 ②胸部のアセスメント ③末梢循環系のアセスメント (2) 恒常性維持のための調節機構 ①中枢神経系・末梢神経系 検査：中枢神経(小脳) 末梢神経(感覚・12 脳神経) (1) 息をする ①脳神経・呼吸器系の解剖、体表解剖 ②胸郭と肺のアセスメント ③呼吸音のアセスメント (2) 動く ①脳神経・骨・関節・筋肉の解剖 ②運動器系のアセスメント 検査：徒手筋力テスト (MMT) 関節可動域 (ROM) 測定 (3) 食べる ①脳神経・消化器系の解剖 ②口腔・嚥下機能のアセスメント ③栄養状態のアセスメント 検査：身体計測 (4) トイレに行く ①脳神経・消化器系の解剖と機能 ②腹部全体のアセスメント	講義 演習 モデル 人形 使用
2	3. 心理・社会状態のアセスメントの意義と方法が理解できる	1) 心理・社会状態のアセスメント	(1) 心理側面のアセスメント (2) 社会側面のアセスメント	講義
4	4. ヘルスアセスメントの方法が理解できる	1) ヘルスアセスメント演習	(1) 事例を用いてヘルスアセスメントを実践する	演習
2	終講試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院 菱沼典子著 第4版 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院 看護がみえる vol3 フィジカルアセスメント メディックメディア			
参考文献	山内豊明著 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院 日常生活行動からみるヘルスアセスメント 日本看護協会出版会 系統看護学講座 専門基礎 病態生理学 医学書院 時実利彦著 人間であること 岩波新書			
評価方法	出席時間、筆記試験、レポート、技術修得状況、課題・授業の取り組み状況			

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	療養生活を支える援助技術 I 「環境、安全、活動・休息、安楽」	担当講師	小椋 貴文
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
科目設定のねらい 人間は生まれ育った環境の自然的・社会的な条件の影響を受けながら、個性をもつ一人として自ら選んだ地域社会に参加していく。環境は人間にとって生存を脅かされず生き、生活することを保障されるものでなければならない。病床・療養環境においてはこの安全・安心=安楽こそが健康の回復・安寧に重要である。 本科目では人間の健康と環境の関わりを学び、基本的看護技術として対象者の安全・安楽の観点から、ベッド及びその周囲、さらに療養環境・医療環境全体の調整法を学ぶものである。そして、病床環境を気持ちよく整え、医療物品の一つひとつまで有害微生物・危険物を除去し、対象者を守るための技術習得をめざす。 人は本来、自分の意志のとおりに行きたいところに行き、目的に応じて身体を動かし必要があれば適度な休息や睡眠をとる能力を持っている。人間にとって運動すること・活動すること、休息することの意義をふまえてこれらの援助について学ぶ。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1. 療養生活の安全確保が理解できる	1) 安全を阻害する因子と医療安全対策	(1) 安全を阻害する因子と対応 (2) 安全な医療サービスの基本的な考え方	講義	
2	2. 感染予防対策が理解できる	1) 標準予防策の考え方と内容 2) 感染経路別予防策	(1) 感染の成立 (2) 標準予防策とは (3) 感染経路別予防策	講義 演習	
2	3. 滅菌物の取り扱いの基本と感染性廃棄物の取り扱いが理解できる	1) 滅菌物の取り扱い 2) 感染性廃棄物の取り扱い	(1) 無菌操作とは (2) 滅菌物の取り扱いの実際	講義 演習	
2	1. 環境について考え、環境と健康の相互作用、入院患者の環境が理解できる	1) 環境 2) 生活と健康 3) 環境・安全のニード 4) 療養環境	(1) 環境とは、外部環境と内部環境の相互作用 (2) 感染や危険から保護されるニードと環境 (3) 病室・病床の選択 (4) 空間の縮小と生活・心理面への影響	講義 演習	
2	2. 病室の環境のアセスメントと病床環境を整える目的・方法が理解できる	1) 快適な環境 2) 療養環境を整える援助の目的	(1) 室温湿度・光と音・色彩・空気の清浄性と臭気 (2) 人的環境・安全な環境 (3) 患者の自立を妨げない環境・清潔な環境 (4) 環境整備・ベッドメイキング・リネン交換の目的	講義 演習	
2	3. ベッドメイキングの方法が理解でき、一人で安全で安楽なベッドを作成できる	1) 基本的な ベッドメイキングの方法と実際	(1) クローズドベッドとオープンベッドのつくり方 (2) 物的環境の評価・作業環境の調整 (3) ボディメカニクスを活用した技術 (4) 安全上しなければならないことの確認	演習	

2	1. 活動・休息の意義とメカニズム、援助方法が理解できる	1) 活動・休息の意義 2) 活動・休息のメカニズム 3) 活動・休息のアセスメント 4) 活動・休息の援助	(1) 活動・運動の意義 (2) 活動・運動の生理学的メカニズム (3) 日常生活動作・手段的日常生活動作 (4) 睡眠・休息の意義 (5) 睡眠の生理学的メカニズム (6) 睡眠の種類と睡眠障害 (7) 睡眠・休息の援助	講義 演習
2	2. 各種体位の特徴と移動の援助方法が理解できる	1) 姿勢と体位 2) 移動の援助	(1) 姿勢と体位の種類・特徴 (2) ボディメカニクスの基本 (3) 体位変換技術の基礎知識 (4) 歩行援助の基礎知識 (5) 移乗・移送援助の基礎知識	講義 演習
2	3. 安全・安楽・自立を考慮した移動の援助が実施できる	1) 援助の実際	(1) 体位変換の実際 (2) 移乗・移送の実際 車椅子、ストレッチャー	演習
2	1. 身体ケアによる安楽への援助が理解できる	1) 身体ケアを通じてもたらされる安楽	(1) 身体機能に直接的にはたらきかける安楽技術体位保持の基礎知識	講義 演習
2	2. 体位保持の基礎知識と援助の実際が理解できる	1) 体位保持	(1) 体位保持の援助の実際	講義 演習
2	3. 褥法の基礎知識と援助の実際が理解できる	1) 褥法	(1) 褥法の基礎知識 (2) 褥法の実際	講義 演習
4	環境整備の援助方法を理解して、対象者に合わせた援助方法を考え、実施できる	対象者に合わせた環境を整える援助技術	(1) 対象者の安全、安楽を考慮した移乗の援助、体位変換の援助 (2) ベッドの清潔・ベッド周りの整理整頓、ベッドメイキング	演習
2	試験		筆記試験	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 II 医学書院 菱沼典子 著 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院 V.ヘンダーソン 著 湯楨他 訳			
参考文献	系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 医学書院 秋葉公子 他 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 スーヴェルヒロカワ 平田雅子 著 ベッドサイドを科学するー看護に活かす物理学 学件メディカル秀潤社 小寺豊彦 著 楽しく学ぶ！看護につながる解剖生理 昭林社 竹尾恵子 編 医療安全と感染管理をふまえた 看護技術プラクティス 第4版 学研メディカル秀潤社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 ナーシングキャンパス 学研			
評価方法	出席時間、筆記試験、技術確認、課題・授業の取り組み状況			

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	療養生活を支える援助技術Ⅱ 「食・排泄・衣・清潔」	担当講師	大海 貴子
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
科目設定のねらい 人が生命をはぐくみ、またそれを維持するためには生活行動が不可欠である。身なりを整え、身体を清潔に保つことは、自分自身が心身ともに心地よいだけでなく、社会の中で人と人との関係を円滑に保つうえで大きな影響をもたらす。食事は療養生活を続けていくための源であり、治療の一部でもある。なんらかの理由・制限が生じた状況において看護師が行う援助は、生理的な意味のみならず、その人の病との向き合い方や、食べることを通じた人との関係性など、心理・社会的な意味にまで影響を及ぼす。生命の維持や成長にとって必要な栄養素をとり込み、消化・吸収・代謝を経て不要なものは代謝産物、老廃物として排泄される。排泄は、だれもが他者の世話になることなく、自分でやりたいと思うことの一つである。また、対象者への身体にはたらきかけるすべての援助は、安楽につながるといっても過言ではない。病気や障害、治療上の制約によって、また、健康であっても加齢や幼弱であることでそれらの行動がとれない場合がある。これらのことをふまえ、本科目では「体をきれいにし、適切な衣服をまとうこと」「食すること」「排泄すること」の意義をふまえてこれらの援助について学ぶ。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1.療養生活を支える援助を行う意義を理解する	1.療養生活を支える援助とは	1.療養生活を支える援助技術の意義 1) 生理的、心理的、社会的意義 2) 援助者に求められる基本的姿勢	講義	
12	2.根拠を理解しながら、援助方法を実施する ・清潔 ・安楽 ・食事 ・排泄	1.清潔を助ける援助 ・全身清拭・寝衣交換 ・部分浴 ・洗髪 ・入浴 ・シャワー浴 ・口腔ケア・陰部洗浄	1.清潔を支える援助 1) 清潔援助の基礎知識 2) 全身清拭・寝衣交換の実際 3) 部分浴の実際 4) 洗髪の実際 5) 口腔ケアの実際 6) 陰部洗浄の実際	講義 演習 演習 演習 演習 演習	
4	3.単元目標2を活かし、複合的な援助を実施する	2.食事を支える援助 ・食事摂取方法 ・食事介助	1.食事を支える援助 1) 食事援助の基礎知識 2) 食事介助 (経口摂取が出来る対象者への援助)	講義 演習	
8		3.排泄を支える援助 ・自然排泄 ・尿器、便器 ・浣腸、摘便 ・一時的導尿 ・持続的導尿	2.排泄を支える援助 1) 排泄援助の基礎知識 2) 尿器・便器を使用した排泄援助の実際 3) 浣腸の実際 4) 一時的導尿実施に関する援助技術 膀胱留置カテーテル固定・管理に関する援助技術の実際	講義 演習 演習 演習	
2		4.療養生活を支える援助の実施	3. 療養生活を支える援助 * 食事・清潔・安楽を考えた援助の実際 (手浴、口腔ケア、ポジショニング)	演習	
2	試験				

テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院 菱沼典子 著 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 V.ヘンダーソン 著 湯愼他 訳 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会
参考文献	秋葉公子 他 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ノーヴェルヒロカワ 平田雅子 著 ベッドサイドを科学するー看護に活かす物理学 学件メディカル秀潤社 時実利彦 著 人間であること 岩波新書 小寺豊彦 著 楽しく学ぶ！看護につながる解剖生理 昭林社 竹尾恵子 編 医療安全と感染管理をふまえた 看護技術プラクティス 第4版 学研メディカル秀潤社
評価方法	出席時間、筆記試験、技術確認、課題・授業の取り組み状況

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	看護展開方法の基礎	担当講師	杉垣 ひとみ
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
科目設定のねらい					
看護は「対象者の健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復及び苦痛の緩和を行い、生涯を通して、その人らしく生を全うすることができるよう身体的、社会的、精神的に支援することを目的としている。」このような看護を展開するための思考法に問題解決思考、目標志向型思考などがある。					
本科目では、対象に最もふさわしい看護を意図的・系統的に、かつ科学的・効果的に行うために、その手段・方法の基盤となる考え方を看護理論による枠組みを理解しながら学ぶ。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1. 看護の目的に向かって看護を展開する考え方が理解できる	1) 看護とは 2) 看護における対象のとらえ方	(1) 看護の目的・看護の機能 (2) 看護実践のための思考法 (3) 問題解決思考と目標志向型思考 (4) 看護過程と看護診断 (5) 看護過程の基盤となる考え方 ・クリティカルシンキング ・リフレクション ・臨床推論と臨床判断	講義	
2	2. 対象の全体のアセスメントのための枠組みが理解できる	1)看護理論による枠組み	(1)看護理論とアセスメントの枠組み ・ヘンダーソン、ゴードン、ロイ、オレム	講義 グループワーク	
2	3.看護過程の構成要素の特徴が理解できる	1) 看護過程の構成要素	(1)看護過程の構成要素とその特徴 ・アセスメント ・看護問題の明確化 ・計画立案 ・実施 ・評価	講義	
4	4.アセスメント（情報の収集と解釈）が理解できる	1) アセスメント 2) データベースアセスメント	(1) データ収集 ・主観的情報と客観的情報 (2) 人間の反応の理解 ・データから情報への変換 ・「人間の反応」の解釈 ・「人間の反応」の分析 ・「人間の反応」の判断 ・「人間の反応」の関連性の把握 ・健康上の問題の把握 (1)ヘンダーソンの14の基本的ニーズに基づく枠組みでデータベースアセスメント ①基本的欲求の状態 ②基本的欲求を変容させる病理的状态 ③基本的欲求に影響を及ぼす常在条件 (2)「その人」の「重点的に考える」焦点アセスメント ① 「体力」「意思力」「知識」一どこが欠如し、ニーズが未充足状態なのか ② その人の持てる力の維持向上 ③ その人のニーズが充足された状態(目	講義 協同学習	

4	4. 対象者の全体像をつかむための関連図が理解できる	1) 関連図の意義 2) 関連図の考え方 3) 全体像	標) (1) 関連図の意義; 問題が明確になる (2) 関連図から明らかになること ①問題の原因(関連因子)誘因(危険因子) ②症状、徴候 ③強化したい強み ④問題の優先順位	講義 協同学習
2	5. 看護問題の明確化の過程、看護の焦点の抽出の過程が理解できる	1) 看護問題の種類と看護の焦点 2) 優先順位	(1) 立体像モデルと全体像 (1) 実在・リスク・ヘルスプロモーション型の看護問題 (2) 問題の優先順位の決定—決定の根拠 (3) 看護の焦点	講義
2	6. 対象者に期待される成果の明確化・看護計画立案が理解できる	1) 看護目標 2) 看護計画	(1) 期待される成果—即ち、看護目標 (2) 標準看護計画(スタンダードケアプラン) (3) 観察計画(O-P) (4) 直接ケア計画(T-P) (5) 教育・指導・情報提供計画(E-P)	講義
1	7. 援助の実施、及び実施後の評価と計画修正の過程が理解できる	1) 実施 2) 評価 3) リフレクション	(1) 実施過程を観察し、期待される成果・看護問題が解決に向かったかを記録、評価 (2) 評価することで、看護計画の修正 (3) 評価はスタートラインを引き直す段階	講義
1	8. 看護記録の目的と機能、看護記録の記載方法が理解できる	1) 看護記録 2) 記録の構成	(1) 記録の法的位置づけ (2) 看護記録の目的と機能 (3) 守秘義務違反と記録の改ざんは法的責任を負う (4) 看護記録の構成	
1	9. 筆記試験		<筆記試験>看護過程の知識のまとめ	筆記試験
9	10. 紙上患者の「看護過程」が展開できる	1)看護過程の展開	(1) 事例対象者のニーズの充足状況の判定と看護問題の明確化看護の焦点の明確化 【20歳 気胸患者事例】 (2) 看護実践と評価	講義 演習
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I 医学書院 秋葉・江崎他著 第5版 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ニューヴェル・ヒロカワ			
参考文献	V.ヘンダーソン著 湯楨他訳, 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 井上智子他編集 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図 第2版 医学書院 高木永子監修 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント第5版 学研メディカル秀潤社 看護科学研究会・看護教育研究グループ 患者理解への看護の視点 日本看護協会出版会 舟島なをみ他著 看護のための人間発達学 第5版 医学書院 看護がみえる vol4 看護過程の展開 メディックメディア ナーシング・キャンパス 2022 学研メディカル秀潤社			
評価方法	出席時間、筆記試験、課題・授業の取り組み状況			

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	診療の補助技術Ⅰ	担当講師	櫻井 幸子
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
科目設定のねらい					
現代の医療は刻々と変化し、検査内容も治療方法もより高度化している。正しく検査が行われ、治療効果が発揮されることは対象者の健康回復・安寧のために重要である。しかし、検査・治療・処置には「痛み」が伴うことが多い。したがって、「診療の補助」における看護の役割は正確に検体採取すること、与薬・輸血の実施、様々な処置の介助だけでなく、身体侵襲に伴う苦痛を最小限にすることである。これらのことをふまえ本科目では、正確さと対象の安全・安楽が同時に要求される検査・治療・処置に伴う看護技術の習得をねらうものである。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1. 診療の補助技術の位置づけと安全な技術の提供について理解できる	1)診療の補助技術と安全な技術提供	(1) 診療の補助技術とは (2) 安全な技術提供に向けた基本技術	講義 演習	
6	2. 検査・診察を受ける対象者への理解と検査・診察における看護師の役割が理解できる 3. 検体採取方法が理解できる	1) 検査の意義 2) 検査を受ける対象 3) 検査における看護師の役割 1) 生体検査 2) 検体検査	(1) 診療における検査の位置づけ (2) 検査 - 診断プロセスと対象者の心理 (3) 看護師の役割 ①正確な検査結果を得る ②検査に伴う危険や苦痛を最小限にする (4) 消化管造影・超音波検査時の看護 (5) MRI・内視鏡・心電図・肺機能検査の介助 (6) 尿・便・喀痰の検査 (7) 穿刺法の介助(腰椎・胸椎・腹腔・骨髄)	講義 演習 動画視聴	
4	4. 血液検査の為の血液採取について留意点を述べる事ができる	1) 血液検査の種類と目的 2) 採血の準備 3) 採血に伴う事故防止	(1) 静脈血採血 (2) 動脈血採血 (3) 末梢血管からの血糖測定 (1) 注射器・注射針の種類とその構造、取り扱い方 - 清潔と安全への留意 (2) 採血部位の選択 (1) 消毒方法・穿刺角度と注射器の固定 (2) 血液吸引時の注意 (3) 神経障害・皮下出血・動脈穿刺・患者誤認の予防	演習 シュミレーター 使用 講義 講義	
	5. 静脈血採血が実施できる	1) 静脈血採血の実際	(1) 注射器による方法 (2) 真空採血管による方法	演習	
2	6. 与薬の意義と目的と看護師の役割が理解できる	1) 与薬の基礎知識 2) 看護師の役割	(1) 与薬の基礎知識 ① 薬物療法・与薬の定義 ② 与薬を受ける患者の特徴 ③ 薬理作用に影響する因子 (2) 正しい与薬・与薬の原則 (3) 医薬品の規定・薬剤の管理 - 毒薬・劇薬・	講義 講義	

4	7. 与薬の方法が理解できる。	1) 経口与薬 2) 非経口薬 3) 注射法	麻薬 (1) 経口与薬の特徴／援助方法と留意点 (2) 吸入薬の特徴と吸入の援助方法と留意点 (3) 点眼・点耳・点鼻薬の特徴と留意点 (4) 経皮的与薬の特徴と援助方法と留意点 (5) 坐薬の特徴と直腸内与薬の援助方法 (6) 注射法／注射法の目的と種類	
8	8. 各注射法が実施できる。	1) 薬液の準備 2) 皮下注射 筋肉内注射 皮内注射 3) 静脈内注射法	(1) 薬剤準備①「アンプルからの吸い上げ」 薬剤の準備②「バイアルからの吸い上げ」 (2) 皮下注射の適応・注射部位の選定と実際 (3) 筋肉内注射の適応・注射部位の選定と実際 (4) 皮内注射の適応・部位の選定 (1) 静脈内注射法の概要・目的 (2) ワンショット法の適応 (3) 点滴静脈内注射法の適応 (4) 中心静脈カテーテル留置の適応 (4) ワンショット法の実際 (5) 点滴静脈内注射法の実際と管理 自然滴下、三方活栓	講義 演習 講義 演習
2	9. 輸血に関する基礎知識が理解できる。	4) 輸血療法の基礎知識	(1) 輸血療法の種類と目的 (2) 輸血の副作用 (3) 輸血療法を受ける患者の援助	講義
2	試験		筆記試験（検査時の看護と与薬の看護）	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院			
参考文献	佐藤久美 他監修 看護技術が見える vol② 臨床看護技術 メディックメディア 本庄恵子 他監修 写真でわかる臨床看護術① 注射・検査に関する看護技術を中心に！インターメディカ 平田雅子 著 ベッドサイドを科学するー看護に生かす物理学 学研メディカル秀潤社			
評価方法	筆記試験、課題レポート・授業の取り組み状況			

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	診療の補助技術Ⅱ	担当講師	山本智恵子・吉野洋子
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
科目設定のねらい					
現代の医療は刻々と変化し、検査内容も治療方法もより高度化している。正しく検査が行われ、治療効果が発揮されることは対象者の健康回復・安寧のために重要である。しかし、検査・治療・処置には「痛み」が伴うことが多い。したがって、「診療の補助」における看護の役割は正確に検査・処置が受けられること、処置の介助だけでなく、身体侵襲に伴う苦痛を最小限にすることである。これらのことをふまえ本科目では、正確さと対象の安全・安楽が同時に要求される検査・治療・処置に伴う看護技術の習得をねらうものである。					
基礎看護技術として、呼吸を整える技術、創傷管理について本科目で捉えることとする。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1. 呼吸を整える援助についてイメージできる	1)呼吸を整える技術	呼吸を整える援助とは	講義	
4	2. 酸素吸入療法の基礎知識と援助の基本が理解できる	1) 酸素吸入療法	(1) 酸素吸入療法の基礎知識 (2) 酸素吸入療法の援助の基本	講義 演習	
6	3. 排痰ケアの援助の基本が理解できる	1)排痰ケア	(1) 排痰ケアの基礎知識 (2) 排痰ケアの基本 ① 体位ドレナージ ② 咳嗽介助、ハフフィング ③ 吸引	講義 演習	
		2)吸入	(1) 吸入の基礎知識 (2) 吸入援助の基本	講義 演習	
4	4. 呼吸を整える援助の基礎知識と基本が理解できる	1)胸腔ドレナージ	(1) 胸腔ドレナージの基礎知識 (2) 胸腔ドレナージの援助の基本	講義	
		2)人工呼吸療法	(1) 人工呼吸療法の基礎知識 (2) 人工呼吸療法の援助の基本	講義	
6	5. 創傷管理の基礎知識と処置方法の基本が理解できる	1)創傷管理の基礎知識 2)創傷処置	(1) 創傷とその治癒 (2) 創傷治癒のための環境づくり (1) 創洗浄と創保護 (2) テープによる皮膚障害 (3) 包帯法	講義 演習	
6	6. 褥創予防の基礎知識と援助の基本が理解できる	1)褥創予防	(1) 褥創予防の基礎知識 (2) 褥創予防の実際	講義 演習	
2	試験				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2 版 医学書院				

参考 文献	佐藤久美 他監修 看護技術が見える vol② 臨床看護技術 メディックメディア 本庄恵子 他監修 写真でわかる臨床看護術① 注射・検査に関する看護技術を中心に！インターメディカ 平田雅子 著 ベッドサイドを科学するー看護に生かす物理学 学研メディカル秀潤社 竹尾恵子 編 医療安全と感染管理をふまえた 看護技術プラクティス 第4版 学研メディカル秀潤社
評価 方法	筆記試験、課題レポート・授業の取り組み状況

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	臨床看護総論Ⅰ	担当講師	田中 佳代子
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
科目設定のねらい 看護師は患者を目の前にすれば、たとえ看護計画がなかったとしても自己の経験値を頼りに状況を判断し、必要な看護援助を実践しなければならない。そこでは「臨床判断力」を用いて EBN に基づいた看護実践が求められる。本科目では、専門基礎分野の解剖生理学・病態生理学・看護につながる疾病論で学んだ臨床判断能力の基盤となる学習内容を活用し、一段階ステップアップした臨床判断のための思考を育成することを目的とする。臨床の場（看護活動の場）とはどのようなものなのかを学んだ上で、臨床判断モデルのプロセスである「気づき」→「解釈」→「反応」→「省察」の 4 つのフェーズの、「気づき、解釈する」段階を学ぶ内容とする。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1. 臨床看護における看護の対象と看護師の役割について理解する	1) 臨床看護とは	(1) 看護の対象・看護活動の場 ① ライフサイクルから捉えた対象 ② 生活と療養の場（看護活動の場）から捉えた対象 (2) 看護師の役割 ① ライフサイクル各期に応じた看護の必要性 ② 病院・施設における看護師の役割 ③ 地域における看護師の役割	講義 協同学習	
2	2. 健康状態に応じた看護の考え方を理解する	2) 健康状態と看護	(3)健康状態の考え方と各期に応じた看護の特徴 ①急性期（回復期） ②慢性期 ③リハビリテーション期 ④終末期	講義 協同学習	
2	3. 治療や処置を受ける対象者への看護について理解する	3)治療・処置と看護	(4)治療や処置と看護の概要 ①各種治療方法 ②創傷処置・創傷ケア	講義	
8	4. 対象のニーズ、気になり、健康問題について「気づき、解釈」する	4) 臨床判断のプロセスをたどり、事例について考える（必要な看護援助を考える） 気管支喘息	(5)臨床判断のプロセス (6)呼吸困難の症状を示す対象者への看護を考える ①対象者の状況について気づく ②状況について、何が生じているか考える ③状況をアセスメントするための意図的な情報収集 ④把握している情報の意味づけをする ⑤看護介入の方向性を決定する	事例演習 協同学習 シミュレーション学習	
1	試験				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 医学書院 看護過程に沿った対象看護 学研				
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学・病理学・病態生理学・薬理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 看護学概論・基礎看護技術ⅠⅡ・成人看護学/呼吸器 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院				
評価方法	筆記試験 学習への取り組み状況				

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	地域と地域で暮らす人々の健康	担当講師	坂本 真由美 養父市 市長
実施年次	1 年次	単位数	2 単位	時間数	45 時間
科目設定のねらい 本科目では、地域について知り、地域で暮らす人々の理解を深め、地域の生活環境が健康に与える影響を捉え、健康な生活について学ぶ。 但馬地域について調査し、但馬地域の特徴を理解する。また、育児支援活動、教育機関、企業、病院、診療所、高齢者の地域交流活動の場に出向き地域で暮らす人々と様々な看護の場について理解を深める。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
10	1. 暮らしについて理解できる	1) 地域で暮らすということ	(1) 地域で暮らす一家の生活と暮らし ① こどもを生み育てる ② 学ぶ ③ 働く ④ 病を治す ⑤ 老いと共に生きる ⑥ 最期を迎える (2) 地域で暮らす一家の人生史 (3) 日本、兵庫県、但馬の暮らしの移り変わり	講義 演習	
		2) 支え合って生きるとは	(1) コミュニティ (①家族 ②仲間 ③近隣の人々 ④学校や職場) (2) システム思考 (3) 支え合い (フォーマル・インフォーマル) (4) 地域共生社会と地域包括ケア	講義 演習	
10	2. 暮らしの基盤の地域の特徴を理解できる	3) 但馬地域について知ろう	(1) 但馬地域に暮らす人々について調査 ・但馬地域の生活環境・特性について ・但馬地域で暮らす人々の生活について調査したことを整理し、発表する	演習	
		4) 養父市について知ろう	(1) 養父市に暮らす人々について調査 ・養父市の生活環境・特性について ・養父市で暮らす人々の生活について ・養父市の意識調査 (インタビュー) (2) 養父市の現状と構想	演習 (フィールドワーク) 市長特別講義	
10	3. 暮らしが健康に与える影響が理解できる	5) 暮らしが健康に与える影響	(1) 地域の生活環境が健康に与える影響 ・文化的環境、社会的環境、自然環境 (2) 養父市で生活する人々の生活と健康の特徴、健康課題 ・調査した内容から、健康な生活について考え発表	講義 演習	
14	4. 健康を支える社会のしくみと看護活動の場が理解できる	6) 暮らしと健康の実際と看護活動の場	(1) 地域における様々な生活を支える場、健康を支える看護活動の場 ・地域で生活する人々の健康生活と看護	講義 演習 (マッピング	

1	試験		の場について調査する ・健康を支える社会のしくみ、看護の役割について考える (2) 地域ケアセミナー（但馬長寿の郷）	フィールドワーク)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 医学書院 系統看護学講座 専門分野 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院			
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 看護関係法令 医学書院			
評価方法	出席時間 筆記試験 プレゼンテーション レポート 授業の取り組み状況			

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	地域・在宅看護概論	担当講師	坂本真由美 養父市役所
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間
科目設定のねらい 本科目では、地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念について基本的な知識を学ぶ。また、看護の対象となる家族へのアプローチ法の基本について学習し、各看護学での家族看護に発展させる。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
4	1. 地域・在宅看護論の対象について理解できる	1) 地域・在宅看護論の対象 2) 健康と暮らしを支える看護 3) 看護が提供される多様な場	(1) 地域に暮らすすべての人々 (2) 生活の場・家族の多様化 (3) 多様な健康レベル、多様な発達段階、多様な疾患、ライフステージ (1) 地域における看護の定義・目的・役割 (2) 地域共生社会・地域包括ケアシステムにおける看護師の役割 (3) 自助/互助/共助/公助の意義と役割 (4) 家族を支える看護システム論 (5) 多職種連携、協働の意義と方法	講義 演習 	

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	成人看護学概論	担当講師	小椋 貴文
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
科目設定のねらい 現代を生きる大人の生活は時代と共に様変わりしているが、とりわけ現代の経済的・環境的变化は目まぐるしく、大人の健康問題も複雑性や多様性を増している。さらに、近年医療制度改革・医療システム変革が大きく進められている。大人の健康と生活の包括的な理解のためには、大人の生活や健康に関する最新の動向をキャッチし、時代を生きる大人の健康生活を多角的にとらえる視点を持つ必要がある。このような背景から、本科目では大人の生活と健康に関する基本的知識を基盤とし、大人の多様な健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本的考え方や方法を学ぶ。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1. ライフサイクルからみた成人期の特徴が理解できる	1) 対象の理解	(1) 成人とは、「大人」とは (2) 生涯発達と成人期 ① 生涯発達とは ② 発達段階・発達課題 (3) 成人期各発達段階別の身体的精神的・社会的特徴 ① 青年期の特徴 ② 壮年期の特徴 ③ 中年期の特徴	講義 グループワーク	
2	2. 成人期にある対象が生活者として理解できる	1) 生活者としての理解 2) 社会的存在としての理解	(1) 労働と生活 (2) 家族からみた大人 (3) 人生をたどること (1) 発達課題と社会的存在としての役割遂行 ① 所属・役割達成欲求 ② 責任・ワークライフバランス ③ 性別役割行動	講義 グループワーク	
2	3. 成人期にある対象の健康問題の特徴が理解できる	1) 成人期に特有な健康問題の特徴 2) 健康をまもる社会システム	(1) 成人の健康の状況 ① 生と死の動向 ② 罹患・受療の状況 ③ 生活習慣と健康 ④ 職業と健康問題 ⑤ 生活ストレス (2) 定期健康診断 ー職場と地域の健診 各種相談システム	講義 グループワーク	
6	4. 成人期にある対象への看護アプローチの基本が理解できる	1) 成人への看護アプローチの基本	(1) 生活の中で健康行動の促進への援助 (2) 医療者と対象者との信頼関係 (3) 意思決定支援 (4) 家族支援ー家族としての成長 (5) 看護実践における倫理的配慮 (6) チームアプローチと看護マネジメント	講義	

2	5. 療養の場の移行に伴う看護の役割が理解できる	1) 退院支援と継続看護	(1) 障害を持ちながらの生活と社会的支援 (2) 退院支援	講義
1	試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 医学書院			
参考文献	新体系看護学全書 成人看護学① 成人看護学概論／成人保健 厚生省の指標増刊 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 舟島なをみ他著 看護のための人間発達学 第5版 医学書院 田畑・田中共編 哲学－看護と人間に向かう哲学 ヌーヴェル・ヒロカワ			
評価方法	出席時間 筆記試験 レポート 授業の取り組み状況			

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	老年看護学概論	担当講師	大海 貴子 森 知美
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
科目設定のねらい 老年期にある人々を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解する。超高齢社会における医療・保健・福祉制度における看護の役割について学ぶ。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
4	1. 老年期にある人々の特徴を説明できる	1) ライフサイクルにおける老年期とその特徴	(1) 高齢者とは (2) 高齢者の多様性 (3) 高齢者の定義 (4) 老年期の発達段階 (5) 老年期の健康と生活 (6) 加齢による変化 ①身体的・心理的・社会的側面 (7) 高齢者の生理的特徴 (8) 老年症候群 ①老年症候群の特徴 ②急性疾患・慢性疾患・ADL低下に合併する症候 ③フレイルとサルコペニア	講義 グループワーク	
6	2. 高齢者を取り巻く社会が理解できる	2) 高齢者の尊厳と支援	(1) アドバンスケアプランニング (2) エンドオブライフケア	講義	
		1) 超高齢化社会の現状	(1) 高齢者と健康 (2) 高齢者と家族 (3) 高齢者の死亡 (4) 高齢者の暮らし	講義	
		2) 高齢社会における保健・医療・福祉	(1) 高齢者を支える制度 ①保健医療福祉制度の変遷 ②地域包括ケアシステム ②介護保険制度 ④高齢者医療のしくみと制度	講義 グループワーク	
		3) 高齢者の権利擁護	(1) 高齢者虐待 (2) 権利擁護のための制度 ①成年後見制度 ②日常生活自立支援事業	講義 グループワーク	
		4) 養父市の現状と取り組み		講義	
2	3. 老年看護の役割が理解できる	1) 老年看護の特徴	(1) 老年看護の目標 (2) 注目すべき4つの側面	講義	

1	試験	2) 老年看護における諸理論 3) リスクマネジメント	(1) 老年看護に役立つ理論・概念 ①離脱理論 ②サクセスフルエイジング ③選択最適化補償理論 (SOC) ④ストレングスモデル (1) 高齢者のリスクマネジメント ①医療事故 ②救命救急 ③災害	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論 医学書院			
参考文献	舟島なをみ 他編 看護のための人間発達学 第5版 医学書院 山田律子 他編 生活機能から見た老年看護過程＋病態・生活機能関連図 第3版 医学書院 国民衛生の動向・厚生指標 一般財団法人厚生労働統計協会			
評価方法	筆記試験・授業態度・課題に対する取り組み及び課題レポート			

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	小児看護学概論	担当講師	谷口留充
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
科目設定のねらい					
小児の成長・発達の過程と生活の特徴を理解し、よりよい健康状態を保ち、成長・発達を促すための看護の役割を理解する。さらに、基本的生活習慣の獲得や遊びを通して、成長・発達を促すための看護を修得する。また、子どもを取り巻く社会に目を向け、子どもの権利を守るための看護の役割を考える。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
4	1.小児看護の理念と役割について理解する	1) 小児看護の対象	子どもの特徴 子どもと家族・社会 子どもと医療	講義 グループワーク	
10	2.小児の成長・発達と看護について理解する	2) 小児看護の変遷	小児医療と看護の変遷	講義 グループワーク	
		3) 小児看護における倫理	子どもの権利と親の責任 ・児童福祉法 ・児童憲章		
		4) 小児看護の課題	小児看護の役割と責務・課題		
		1) 各発達段階の成長と発達	(1) 成長と発達 ① 発達の定義と原理原則 ② 成長発達に影響する因子 ③ 成長発達の評価 ④ 子どもを理解するための発達理論 【自我発達理論】【認知発達理論】【愛着理論】他 (2) 各発達段階の成長と発達 新生児期・乳児期 ①形態的特徴②身体生理の特徴③各機能の特徴④養育と看護 幼児期 ①形態的特徴②身体生理の特徴③各機能の特徴④養育と看護 学童期・思春期 ①形態的特徴②身体生理の特徴③各機能の特徴④養育と看護	講義 グループワーク 講義 グループワーク 視聴覚教材 講義 グループワーク	
1	3.試験		筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会 舟島なをみ他編 看護のための人間発達学第 5 版 医学書院				
参考文献	山元恵子監修 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ 桑野タイ子他編 新看護観察のキーポイントシリーズ小児Ⅰ 中央法規出版				
評価方法	出席状況、授業の取り組み、レポート、筆記試験				

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	母性看護学概論	担当講師	安達 文佳
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
科目設定のねらい					
本科目では、母性看護の概念と母性看護の実践を支える概念を学ぶ。また、女性の生涯を通じた健康の保持増進の観点からリプロダクティブヘルスに関する課題や、リプロダクティブヘルスケアについて学ぶことをねらいとする。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
4	1. 母性看護の概念と母性看護の実践を支える概念を理解する。	1) 母性看護の概念	(1) 母性・父性とは (2) 女性の一生と母性 (3) 母性看護における対象の特徴 (4) 母性看護の中核理念と基盤となる概念	講義 グループワーク	
2	2. リプロダクティブヘルスに関する概念を理解する。	2) リプロダクティブヘルスに関する概念	(1) リプロダクティブヘルスとは (2) リプロダクティブヘルス／ライツとは (3) セクシュアリティとジェンダー (4) セクシャリティの発達と課題	講義 グループワーク	
		3) リプロダクティブヘルスの現状	(1) リプロダクティブヘルスに関する動向と課題 (2) リプロダクティブヘルスに関する法・施策 (3) 女性の一生からみたリプロダクティブヘルスの視点と健康課題	講義 グループワーク	
6	3. リプロダクティブヘルスケアについて理解する。	4) リプロダクティブヘルスケア	(1) 家族計画と受胎調節 (2) 性感染症とその予防 (3) 喫煙と女性の健康 (4) 人工妊娠中絶と看護 (5) 性暴力を受けた女性に対する看護	講義 グループワーク	
2	4. リプロダクティブヘルスに関する倫理について理解できる。	5) リプロダクティブヘルスにおける倫理	(1) 生命倫理、妊娠、褥婦、胎児および新生児の権利と擁護 (2) 出生前診断 (3) 人間の性と生殖や医療における倫理	講義 グループワーク	
1	試験				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 医学書院				
参考文献	舟島なをみ 他編 看護のための人間発達学 第5版 医学書院 国民衛生の動向・厚生指標 一般財団法人厚生労働統計協会				
評価方法	筆記試験、授業の取り組み状況、レポート				

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	精神看護学概論	担当講師	田中 佳代子
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
科目設定のねらい					
精神障害とは人間ならば誰でも体験する可能性があることや、こころの健康－不健康について学び、精神障害はその人の生きるプロセスであることを理解する。そして精神看護は、人々が障害の有無にかかわらずその人らしく生きていくこと、すなわち自己実現に向けた援助であることを理解し、こころの問題を社会全体で考えることについて、歴史的な偏見や誤解、こころの健康の保持・増進、さらに倫理的な観点から看護が果たす役割について学ぶものとする。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1. こころの健康の意義を理解する 2. 精神看護の目的と意義を理解する	1) 障害の捉え方 精神障害とは 2) 「こころのケア」と社会 3) 精神看護の目的と意義	(1) こころの「健康」と「障害」 (2) 障害の捉え方 (ICF モデル) (3)自殺問題とメンタルヘルス (4)精神医療の課題 (5)「精神科看護」と「精神看護」 (6) 看護の目的・対象	講義	
6	3. こころの機能と発達について理解する 4. 自己が形成される過程を理解する	4) こころのしくみと人格の発達 5)こころ（精神）の発達に関する主要な考え方	(1) 人格と気質 (2) 自我の構造と機能 フロイトの精神力動理論 (3) 自我の防衛機制 (4) こころ（精神）の発達に関する主要な考え方 ・エリクソンの漸成発達理論・ボウルビーの愛着理論・コフートの自己心理学	講義 グループ 討議	
4	5.こころ（精神）の危機状況と精神保健について理解する	6) 危機の概念と予防 7) ストレスと対処 8) コミュニティにおける精神保健 9) 災害時の精神保健	(1) ストレス理論 (2) 危機理論 (3) コーピング (4)「危機」への看護介入、予防概念 (5) ASD と PTSD (6) 災害時の心のケアとメンタルヘルス支援チーム (7)心の回復力（リカバリー）	講義 協同学習	
2	7. 精神保健福祉に関する法律と権利擁護について理解する	10) 精神保健福祉医療の歴史と法制度	(1)精神保健福祉医療の歴史と看護 (2)偏見、差別、スティグマ (3)精神保健福祉の法制度 (4)権利擁護 (5)精神保健福祉に関する支援システム	講義 協同学習	
1	試験				

テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 医学書院 舟島なをみ 看護のための人間発達学 医学書院
参考文献	長田久雄 看護学生のための心理学 医学書院 V.E.フランクル 夜と霧 みすず書房 武井麻子 精神看護学ノート 医学書院 大熊一夫 精神病院を捨てたイタリア捨てない日本 岩波書店 斎藤環 オープンダイアログとはなにか 医学書院 中野敬子 ストレスマネジメント入門 金剛出版 萱間真美 リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術 医学書院
評価方法	筆記試験 レポート 授業や課題の取り組み状況

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	基礎看護学実習 I	担当講師	杉垣ひとみ 全教員
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	45 時間
科目設定のねらい					
地域で生活する対象者が健康障害にて、医療の場で療養生活をする事になり生活が大きく変化する。その生活の変化や日常生活への影響から、対象者は様々な思いを抱いている。本来の生活の場から、入院することによって患者となった対象者の思いを知り、患者の気持ちを理解する。					
また、対象者の健康問題が日常生活へ及ぼす影響を捉え、基本的欲求充足に向けた援助実践し、対象者の基本的欲求充足状態に向けた援助について理解する。					
時間	単元目標	内 容			実習時期
45	1. 看護の対象としての入院患者と療養環境を知ることができる	(1) 対象者の入院の目的の把握 (2) 対象者の療養環境の実際の観察 (3) 対象者の入院生活状況の把握 (4) 対象者の思い			1 年次 1 月
	2. 対象者との人間関係を形成しそのプロセスから対人関係における自己の傾向を知ることができる	(1) 対象者をありのまま理解しようとする態度 (2) 対象者を尊重した態度 (3) 自己の対人関係の傾向に気づく (4) 自己洞察の重要性			
	3. 対象者の健康上のニーズを明らかにすることができる	(1) 対象者の病理的状态 (2) 対象者の基本的欲求に影響を及ぼす常在条件 (3) 対象者の生活行動としての基本的欲求の状態 (4) 対象者の入院・病気・治療に対する受けとめ (5) 対象者の思い			
	4. 生活援助技術と観察技術を実際に適応して基本的欲求の充足をはかることができる	(1) 対象者のバイタルサイン、症状の観察 (2) 基本的欲求の把握 (3) 基本的欲求の充足のための援助の提供 (4) 自己の援助の評価			
	6. 対象者との関わりを通して、看護とは何かを述べるることができる	(1) 実習を通して学生―患者の関わり (2) 看護の視点 (3) 援助過程を振り返って看護の言語化			
評価方法	出席時間・実習評価は実習要項に準ずる				